

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495200198		
法人名	有限会社 レイノーブル		
事業所名	グループホームかりんの家	ユニット名	ゆず
所在地	宮城県仙台市宮城野区燕沢東2丁目1-50		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成27年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「心ひとつに、ゆったり、いっしょに、愛と信頼」の理念を日々、取り入れて、利用者様にとって安心して過ごしていけるようにしている。
 ・利用者様1人1人の話しを傾聴して、その人らしさを大事にしている。
 ・「報告、連絡、相談を確実にし、支援を統一する。」「ゆったり心穏やかに生活する。利用者様の生活リズムやペースに合わせ寄り添う。」「日々、真心を込めて接する事を心がけ、愛と信頼を深める。」のゆずユニットの理念を職員全員で考え、その理念のもとに日々、利用者様1人1人に合わせた支援を行っている。居心地の良い環境を作っていけるように、職員全員で利用者様の笑顔、悩み、不安を取り除いていけるように努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利府街道沿いから約20m程入った静かな住宅街の一角にあり、近隣にはお寺、燕沢小学校、7階建ての復興住宅などがある。グループホームかりんの家は平成26年1月にユニット「れもん」、平成26年8月にユニット「ゆず」が開設された。法人の理念を基に、れもんは「いつも寄り添い、やさしく、あたたかく」、ゆずは「報告、連絡、相談を確実にし、支援を統一する。ゆったり心穏やかに生活する。利用者様の生活リズムやペースに合わせ寄り添う。日々、真心を込めて接する事を心がけ、愛と信頼を深める」のユニットごとの理念を掲げている。年度初めに職員で理念について話し合い、実践に活かす努力をしている。このことは利用者の明るい表情や雰囲気から感じられた。地域住民の一員として町内会に加入し、夏祭りや芋煮会などに参加し、地域交流を図っている。研修や教育に力を入れ、職員のスキルアップを図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 GHかりんの家 ）「 ユニット名 ゆず 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心ひとつに、ゆったり、いっしょに、愛と信頼」の理念をユニットで、より深く共有し、全職員が理念に基づいたケアを心がけている。	法人の理念を基に、年度初めにユニット毎の理念を職員で確認している。職員は利用者にもいつも寄り添い、ゆったり接する事と、情報を共有し、統一したケアを心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を定期的に行っており、地域との繋がりを持ちながら、情報交換を図っている。	町内会に加入し、その新年会に役職員が参加している。回覧板や運営推進会議での町内会長からの情報などで、地域の状況を把握し、夏祭りや芸能大会へ利用者と参加している。歌や踊りのボランティアが来て交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回覧板や、散歩、外出等で地域の方々とお話ができる環境となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の中で、何か出来る事はないか、災害時、火災時の際の対応を確認をしている。	町内会長、民生委員、地域包括職員、家族、職員の出席で2ヶ月に1回開催している。事業所の取り組みを報告し、離設に関する対応や歩道の注意点などについて意見交換し、町内会の諸行事の案内など情報交流しており、日常の事業所の運営やケアに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者と日頃から連絡を取り、適宜な指導を仰ぎながら関係を築くようにしている。	電話での相談や報告を随時行っている。生活保護受給者もいるので、保護課との連携も密にとり、指導援助を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、月1回のミーティング時に全職員で確認するとともに、共有し、対応できている。	玄関の施錠は19時～6時までで、玄関にセンサーを設置している。身体拘束についての学習会やミーティング時に、全職員で話し合いをしている。外出傾向を把握し、一緒に散歩をしながら気持ちを落ち着かせ、安心できるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、職員間で話し合いながら理解していき、利用者様の気持ちに添ったケアが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月1回開催のミーティング時や、ショートミーティングを利用して、勉強会を開き、学んでいけるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する事は、きちんとわかりやすく説明を行ったうえで、利用者様や家族様の不安や、疑問点を聞ける環境作り、理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に苦情担当者、外部に第三者委員を設立し、重要事項説明書に明記している。ホーム内にご意見箱を設置している。	意見や要望を出し易いように、玄関に意見箱の設置や外部に第三者委員を委嘱している。家族とは面会時に話し合ったり、利用者の様子とお手紙をそえた「かりんの家だより」を毎月発行している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員1人1人の意見を聞ける環境作りをし、役割と、責任感が持てるようにしている。週1回のショートミーティングで職員からの意見も聞けるようにしている。	職員は設備環境・広報・研修・衛生・備品管理の委員会に所属し、事業運営に職員の意見を反映できるようにしている。委員会やミーティングで出された意見や提案を管理会議（管理者とユニットリーダー）で随時話し合い、検討し運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境を作り、1人1人が向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員1人1人のケアのスキルを把握して、外部研修の機会を提供し、率先してスキルアップが図れるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城県認知症ケア専門士会に加入し、適宜開催される研修会に参加、情報交換や交流を図り、活動を通じてサービス向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	H27/10/20仙台市主催の「新任介護関係職員交流会」へ参加予定。今後も機会等を通じ積極的に参加していきたい。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査等でご家族様の不安、困っている事、要望等に、耳を傾け信頼関係が築けるよう、努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査等を行い、本人様と家族様の思いを伺い、場面場面で必要なサービスを本人様の意向に添って、提供するよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や皿拭き、お掃除等の生活支援を通して、知識や昔のお話を聞いたり、教わったりしながらスタッフと信頼関係が築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には、月初めに利用者様の1日1日の生活の状況や、心身の状態、イベント事等をお便りにてお伝えしている。必要があれば、家族様の協力や支援を求め、信頼関係を築いていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様のご家族様やご友人の面会を大切にしている。利用者様が昔の馴染みある方とのお話しをよく聞き、話すことにより、信頼関係を築けるように努めている。	利用者の馴染みの場所への散歩や、商店、お墓参り、美術館など希望にそって家族の協力も得て外出支援している。家族や友人などの面会時はお茶やコーヒーなどをだすなど、訪問しやすい雰囲気作りに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様1人1人の個性を理解し、スタッフがこまめにコミュニケーションを取っている。会話やレクリエーションを皆で行う事で、利用者様と過ごす時間を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、本人様、家族様に対して相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の思いや希望、意向を尊重し、努めている。	利用者のケース記録や個人ケア記録を使用し、情報を共有している。利用者の思いや要望の把握が困難な利用者には、好きな踊りや歌など得意な話題を提供することで、表情が明るくなり、生き生き話してくれる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生活歴や生活環境に努め、支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の1日の過ごし方、健康状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々、本人様が良く暮らすための課題と、ケアのあり方について話し合いを行い、支援に繋げている。	毎月開催されるケアカンファレンスで、利用者の状態や家族の意見等を取り入れて、3ヶ月に1回ケアプランを検討・見直し、家族の面会時又は郵送で同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報を共有しながら、ケアの仕方や介護計画の見直しを図れている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでおり、既存のサービスに捉われない支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様1人1人、日々の暮らしを安全かつ、楽しく生活して頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様及び、家族様等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所との連携を図りながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者は希望の協力医療機関を受診しているが、月2回の訪問診療を受けている方が多い。通院の方は基本的には家族が付添っているが、職員が支援する場合もある。「通院同行報告書」や「訪問診療記録」に記載し、情報の共有を図っている。訪問看護ステーションと契約し、健康管理のために週1回訪問している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日常の関わりの中で捉えた情報や気づきを訪問看護師等に伝え、相談し、利用者様が適切な受診や看護を受けられるように支援出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療し、早期に退院できるよう、病院関係者との情報交換や相談に努める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から本人様、家族様と話し合いを行い、事業所としてできることを十分に説明しながら、方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に「重度化した場合における対応に係る指針」に基づき、看取りの考え方や具体的な支援内容を説明し、同意を得ている。看取り経験はない。訪問看護師から資料提供などの協力を得て、重度化対応の学習をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や、初期対応の訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練等を行い、全職員が避難できる方法を身につけると共に、地域との協力体制を築いている。	火災、風水害、地震対応マニュアルは作成されている。夜間想定訓練も含めて毎月職員中心に通報の仕方や消火器の使い方、避難誘導訓練など、その都度課題を決めて実施している。地域住民参加の夜間想定訓練はまだ実施していない。	年に1回は地域住民の参加する夜間想定避難訓練を実施する事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人、人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう、個々に合わせ声掛けをしていく。居室は自由な空間とし、訪問時はノックをしている。	本人、家族の希望で「〇〇さん」と名前で呼んでいる。日頃の電話の対応や訪問客の対応に関しての接遇問題について学習した。トイレ誘導など一人ひとりの人格を損ねないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様と会話をし、思いや希望を傾聴する。表現の難しい利用者様は、日々のなにげない言動や表情から、理解するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様、1人1人のペースを大切にし、趣味等を楽しみながら、その日その日を楽しく過ごせるよう支援する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の好みに合わせ、季節にあったおしゃれができるよう支援している。また、選ぶ事が難しい利用者様は、その日の気温等を考慮し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人の好みや嚥下を考えつつ、旬の食材を美味しく召し上がって頂けるよう、考えている。また、簡単な作業等は職員と一緒に準備をして頂いたり、個々のADLを活かし、支援している。	スーパーからネットで2日分ずつ材料を注文し、不足分は利用者とともに近隣に買い物に行く。職員が1週間毎に献立を作成する。栄養チェックは法人の栄養士が行う。誕生会など諸行事には利用者の希望を取り入れ、外食等もする。和やかな雰囲気職員も同じ食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を個別に記録し、把握している。嗜好等を考慮しつつ、1日1000cc以上を目安に提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた声掛けや介助をし、清潔が保持できるよう、口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記録して排泄パターンを把握している。出来る限り、トイレで排泄ができるよう誘導、介助し、自立に向けた支援をしている。	排泄水分摂取表を活用し利用者の状況を把握している。新人中心に快適に過ごしてもらう為のオムツの当て方の学習を実施している。トイレへの誘導などは人格を損ねないように配慮している。便秘対策としてオリゴ糖やヨーグルトなどを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を用いて、個々の排便状況を確認し、対応している。オリゴ糖や、オリーブオイルの使用、腹部マッサージを行い、予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の体調に合わせ、拒否が見られる場合は、時間帯、日にちをずらす等、個々に合わせた支援をしている。	週2回で希望も取り入れながら入浴している。一人ずつ湯を替え、湯温にも配慮している。ユニット毎に浴槽があり、機械浴と個浴があつて状態に合わせて使い分けをしている。毎日入浴前に血圧や熱などバイタルチェックを行い体調管理している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの習慣や、その日の体調に合わせて、昼寝の声掛けを行う等をし、夜間の安眠へ繋げるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容について正しく理解するように、不明な点は医療機関、薬剤師へ報告、相談している。また、利用者様に変化があればその都度、報告、相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の生活歴や力を活かし、食器拭きや洗濯物たたみ、新聞たたみ等、無理のないよう役割を持って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り本人様の希望に添えるよう、買い物や散歩、ドライブ等、無理のないよう外出の機会を設けている。	事業所として春はお花見、夏は七夕、秋は紅葉狩りなど年間計画にそつて、車イス利用者も一緒に車2台で出かけ楽しんでいる。日々のドライブや外食などは、希望にそつて家族の協力も得ながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人1人の経済力を理解したうえで、本人様の欲求に出来る限り添えるよう、支援していく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀はがきといった節目で、家族様、友人の方にお手紙を書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が作られた装飾品や、書道等で、毎月のイベントに合わせて装飾し、心地よい空間を作るよう工夫している。	天窓があり明るく、採光や通風が良く、快適な居場所となっている。日当たりのよい場所にソファがあり、昼食後テレビを見ながらゆったり過ごしている。利用者が作成した折り紙や塗り絵、習字などを飾っている。全館暖房、加湿器を備え、適切な温・湿度管理をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の性格や個性を理解し、テーブルの配置、席を決め、必要に応じて席替え等、行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は安心して居心地良く過ごせるよう、家族様と連携し、本人様の嗜好に合うようにその都度、対応している。	洗面台やベッドが備え付けられ、収納スペースとしてクローゼットも設置され、整理整頓されている。毎日担当職員が衣類の整理や掃除を支援している。仏壇や趣味としての書道具を持ち込んでいる。新聞を購読している方もおり、自分の部屋としての暮らしが感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の力に合わせ、出来る限り本人様が自立した生活が送れるよう支援している。歩行に不安がある利用者様には離床センサーや、鈴を付ける事で、迅速に対応し、安全な環境へ繋げている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495200198		
法人名	有限会社 レイノーブル		
事業所名	グループホームかりんの家	ユニット名	れもん
所在地	宮城県仙台市宮城野区燕沢東2丁目1-50		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成27年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「いつも寄り添い、優しく、あたたかく」というユニットの理念の通り、利用者様により添い、優しい気持ちで接し、あたたかい雰囲気作りを日々心掛けています。
利用者様の日々の状況の変化を適切に捉え、心地よく過ごしていただくための話し合いを常に行えるよう、職員間の情報共有に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利府街道沿いから約20m程入った静かな住宅街の一角にあり、近隣にはお寺、燕沢小学校、7階建ての復興住宅などがある。グループホームかりんの家は平成26年1月にユニット「れもん」、平成26年8月にユニット「ゆず」が開設された。法人の理念を基に、れもんは「いつも寄り添い、やさしく、あたたかく」、ゆずは「報告、連絡、相談を確実にし、支援を統一する。ゆったり心穏やかに生活する。利用者様の生活リズムやペースに合わせ寄り添う。日々、真心を込めて接する事を心がけ、愛と信頼を深める」のユニットごとの理念を掲げている。年度初めに職員で理念について話し合い、実践に活かす努力をしている。このことは利用者の明るい表情や雰囲気から感じられた。地域住民の一員として町内会に加入し、夏祭りや芋煮会などに参加し、地域交流を図っている。研修や教育に力を入れ、職員のスキルアップを図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果（事業所名 GHかりんの家 ）「 ユニット名 れもん 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所から1年経過し、企業理念を踏まえたユニット理念の構築に取り組んだ。「心ひとつに」「ゆったり」「いっしょに」「愛と信頼」の言葉から、自身が目指す介護、希望、利用者様にどのように暮らして欲しいかなどイメージし、意見を出し合い作り上げた。	法人の理念を基に、年度初めにユニット毎の理念を職員で確認している。職員は利用者にもいつも寄り添い、ゆったり接する事と、情報を共有し、統一したケアを心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の開催による情報交換や、ご家族から地域の情報を頂いている。町内会への加入により、地域交流につながるよう出来る限り参加するようにしている。	町内会に加入し、その新年会に役職員が参加している。回覧板や運営推進会議での町内会長からの情報などで、地域の状況を把握し、夏祭りや芸能大会へ利用者に参加している。歌や踊りのボランティアが来て交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に利用者様と一緒に参加し、地域の方へ認知症の方の理解を深める機会となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しており、町内会の方や民生委員の方を交えて、情報交換ができるように配慮している。	町内会長、民生委員、地域包括職員、家族、職員の出席で2ヶ月に1回開催している。事業所の取り組みを報告し、離設に際しての対応や歩道の注意点などについて意見交換し、町内会の諸行事の案内など情報交流しており、日常の事業所の運営やケアに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者には適宜、ご意見を頂き協力関係を築いている。	電話での相談や報告を随時行っている。生活保護受給者もいるので、保護課との連携も密にとり、指導援助を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束の勉強会を行っており、正しく理解し、利用者様の状況を常に観察し、拘束せず対応できている。	玄関の施錠は19時～6時までで、玄関にセンサーを設置している。身体拘束についての学習会やミーティング時に、全職員で話し合いをしている。外出傾向を把握し、一緒に散歩をしながら気持ちを落ち着かせ、安心できるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員で虐待防止の勉強会を行っており、日々の生活のなかで職員間で言葉かけ、ケアの方法について話し合い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月1回のミーティングのなかで、成年後見制度についての勉強会を行い、学び、理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容や重要事項をきちんと説明し、了承を得たうえで契約している。制度改正がある場合は再度説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内にご意見箱を設置し、家族様からご意見や要望を聞くように取り組んでいる。	意見や要望を出し易いように、玄関に意見箱の設置や外部に第三者委員を委嘱している。家族とは面会時に話し合ったり、利用者の様子とお手紙をそえた「かりんの家だより」を毎月発行している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回開催のミーティングにより、ケアについて職員が意見を出し、話し合っている。	職員は設備環境・広報・研修・衛生・備品管理の委員会に所属し、事業運営に職員の意見を反映できるようにしている。委員会やミーティングで出された意見や提案を管理会議（管理者とユニットリーダー）で随時話し合い、検討し運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃よりお互いが成長できるように、働きやすい職場環境の維持に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップが図れるよう、研修にも積極的に参加できるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	H27/10/20仙台市主催の「新任介護関係職員交流会」へ参加予定。今後もこのような機会等を通じ、積極的に参加していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームの生活に馴染め、安心して過ごせるように本人の不安なこと、要望等に耳を傾け信頼関係が作れるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの見学や実態調査などで、事前に困っている事、不安なこと、要望等を伺い、家族の思いを大切にし、関係づくり努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームの見学や実態調査などでほんにんと家族がその時まず必要としている支援を見極め、アセスメントし、本人と家族の意向に沿うようなサービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの力に応じた作業を一緒に行ったりし、教わったりしながら暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の気持ちに寄り添い意向を聞きながら、できることは協力していただき共に本人を支えていく関係を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族が自由に面会でき、また馴染みの場所の話をしていくことで、関係が途切れないようにしている。	利用者の馴染みの場所への散歩や、商店、お墓参り、美術館など希望にそって家族の協力も得て外出支援している。家族や友人などの面会時はお茶やコーヒーなどをだすなど、訪問しやすい雰囲気作りに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、利用者同士でコミュニケーションが取れるようにし、関わり合っていくことで楽しく生活できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	まだ、サービス利用終了の方はいらっしゃらないが、関係性を大切にしながら繋がりを継続していきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族や本人から情報を確認し、ケース記録や個人ケア記録を使用し、情報共有している。把握が困難な場合でも顔の表情や普段の行動等で希望や意向の把握に努めている。	利用者のケース記録や個人ケア記録を使用し、情報を共有している。利用者の思いや要望の把握が困難な利用者には、好きな踊りや歌など得意な話題を提供することで、表情が明るくなり、生き生き話してくれる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、担当ケアマネージャーから情報共有していただき職員間で把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、個別ケア記録、排泄表等にて利用者のその日の状況、状態も含め、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月開催している会議の中で状況や対応について話し合っている。家族等の意向を取り入れケアプランに活かしている。	毎月開催されるケアカンファレンスで、利用者の状態や家族の意見等を取り入れて、3ヶ月に1回ケアプランを検討・見直し、家族の面会時又は郵送で同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中の様子から得た様子や気づき、必要と思われるケアについて、都度個別ケア記録に記載し、職員間の日々の申し送りで情報共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員一人一人が利用者の日々の変化に気づき、個々に違う背景や身体状況を加味しながら、その方の笑顔のために必要なケアができるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人やご家族の意向をもとに施設周辺の散歩や買い物の機会を設け、支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を大切に、医療機関や訪問診療を利用していただいている。	利用者は希望の協力医療機関を受診しているが、月2回の訪問診療を受けている方が多い。通院の方は基本的には家族が付添っているが、職員が支援する場合もある。「通院同行報告書」や「訪問診療記録」に記載し、情報の共有を図っている。訪問看護ステーションと契約し、健康管理のために週1回訪問している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と連携をはかり情報を常に共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関と利用者の状態について情報交換を行っている。また、ご家族との連絡も取りあっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について、ご家族の考えを伺い、医療機関と連携をとりながら、ご希望にそえるよう取り組んでいる。	入居時に「重度化した場合における対応に係る指針」に基づき、看取りの考え方や具体的な支援内容を説明し、同意を得ている。看取り経験はない。訪問看護師から資料提供などの協力を得て、重度化対応の学習をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員同士での日々の申し送りで情報を共有している。また、月に1度全体でミーティングを行い、事故発生時についての説明、対応方法を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的に行い、全職員が日頃から意識できるよう取り組んでいる。	火災、風水害、地震対応マニュアルは作成されている。夜間想定訓練も含めて毎月職員中心に通報の仕方や消火器の使い方、避難誘導訓練など、その都度課題を決めて実施している。地域住民参加の夜間想定訓練はまだ実施していない。	年に1回は地域住民の参加する夜間想定避難訓練を実施する事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を尊重し、利用者に合わせた声掛けの工夫をしている。プライバシーを確保するため訪室時のノックなどを行っている。	本人、家族の希望で「〇〇さん」と名前で呼んでいる。日頃の電話の対応や訪問客の対応についての接遇問題について学習した。トイレ誘導など一人ひとりの人格を損ねないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の言動や動作、表情をよく見て利用者の話をよく聞くようにし、理解へ繋げている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者との会話や昔話を聞き、楽しみながら今まで楽しんでいたことを出来る範囲でしていただき、その人らしく過ごしていただく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みに合わせて身だしなみやおしゃれができるように支援している。温度調節などしやすい服装を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々のできる作業をお願いし、一緒に準備、片付けをしている。一人一人の力を活かしながら支援している。	スーパーからネットで2日分ずつ材料を注文し、不足分は利用者とともに近隣に買い物に行く。職員が1週間毎に献立を作成する。栄養チェックは法人の栄養士が行う。誕生会など諸行事には利用者の希望を取り入れ、外食等もする。和やかな雰囲気職員も同じ食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を個別に記録し、体調、状態を見ながら合うものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを毎食後に行い、介助等で清潔保持をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用いて、一人一人の排泄周期に合わせたトイレの誘導、声掛け、介助を行っている。できる限り、トイレでの排泄ができるように支援している。	排泄水分摂取表を活用し利用者の状況を把握している。新人中心に快適に過ごしてもらうためのオムツの当て方の学習を実施している。トイレへの誘導などは人格を損ねないように配慮している。便秘対策としてオリゴ糖やヨーグルトなどを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を用いて、個々の排便状況を把握し、適宜対応している。オリゴ糖やオリーブオイルを使用し、自然排便を促す取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しみにできるように会話を工夫するなど、雰囲気づくりを大切にしている。体調により、シャワー浴、清拭で対応している。	週2回で希望も取り入れながら入浴している。一人ずつ湯を替え、湯温にも配慮している。ユニット毎に浴槽があり、機械浴と個浴があつて状態に合わせて使い分けをしている。毎日入浴前に血圧や熱などバイタルチェックを行い体調管理している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の年齢、心身の状態を考慮し、休んでいただいたり自室での休憩や臥床を促している。夜間の良質な睡眠の為、生活リズムが整うよう活動時間の工夫もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用途、容量に関して正しく理解するように、不明な点は医療機関、薬剤師へ報告、相談している。薬の変更時など情報を聞き、職員間で回覧できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理の配膳、食器拭きなど個々の力を活かせるような役割をお願いし、自身につながる支援を心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見など季節の外出や、個別に意向をお聞きし、散歩などにお連れしている。利用者の希望や趣向も考慮しつつ家族の協力を得ながら実現できるよう働きかけている。	事業所として春はお花見、夏は七夕、秋は紅葉狩りなど年間計画にそって、車イス利用者も一緒に車2台で出かけ楽しんでいる。日々のドライブや外食などは、希望にそって家族の協力も得ながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金がないと不安になられる利用者は多く、把握しており個別に支援している。利用者のお小遣いは事務所で預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いのはがきを利用者から家族宛てに写真付きで送っている。書けない方にはご本人が思っている事、書きたい事などを代筆している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは天窓があり、自然な光を取り入れることができ、また、音、色、温度など刺激がないように配慮している。食堂には季節を感じて頂けるように、行事や誕生日の写真を新聞にして掲示している。	天窓があり明るく、採光や通風が良く、快適な居場所となっている。日当たりのよい場所にソファがあり、昼食後テレビを見ながらゆったり過ごしている。利用者が作成した折り紙や塗り絵、習字などを飾っている。全館暖房、加湿器を備え、適切な温・湿度管理をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂では気の合った者同士が思い思いに過ごせるように席の配置を工夫している。また、ソファも置き、利用者同士で会話され楽しく過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのあるものを持ってきて頂き、出きる限り自宅に近い雰囲気となるように家族にも協力して頂き、本人が居心地良く過ごせるように工夫している。	洗面台やベッドが備え付けられ、収納スペースとしてクローゼットも設置され、整理整頓されている。毎日担当職員が衣類の整理や掃除を支援している。仏壇や趣味としての書道具を持ち込んでいる。新聞を購読している方もおり、自分の部屋としての暮らしが感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、浴室には利用者がわかるように大きな字で表示している。共有スペースには不要なものを置かないようにし、危険防止に努めている。		